

難病の膠原病で女優生命を絶たれた 藤田三保子さん

藤田 三保子(ふじた みほこ、1952年10月31日 -)は山口県宇部市出身の女優・シャンソン歌手、画家。
山口県立防府高等学校卒業



高校卒業後、俳優を目指して上京。歌手の内弟子などを経て、1973年に文学座付属研究所夜間部へ入学。同期に本田博太郎がいた。研究所に入ってまもなく連続テレビ小説『鳩子の海』のヒロイン・鳩子役のオーディションに合格し、鳩子の大人時代(18歳から42歳)を演じることになる。それ以前に「浅田京子」名義でのドラマ出演があったが、1974年放送開始の『鳩子の海』が芸能界本格デビュー作となる。

1975年、刑事ドラマ『Gメン'75』に響圭子刑事役で二年間レギュラー出演。その後、結婚。その頃までは「藤田美保子」(読み同じ)という芸名だったが、病氣闘病もあり、1989年に現在の名前に改名した。以降も映画、舞台、テレビドラマと幅広く出演。また画家として個展を開催したり、2004年からシャンソン歌手として公演活動を展開している。2006年8月、全国11箇所で開催された舞台「IMAGINE 9.11」で役者として本格的に復帰を果たす。翌年、都内2箇所で開催された同作品にもレギュラーとして出演している。俳句結社・炎環に所属し、「山頭女」という雅号で俳句創作もおこなっている。

「健常者でない子供が生まれる確率は一般より25倍も高い」といわれながら、出産を決意

74年、NHK朝の連続テレビ小説「鳩子の海」のヒロインでデビューした藤田三保子(当時は美保子)さん。その後は一転、「Gメン'75」(TBS系)で紅一点、クールな女性Gメンを演じ、オトコ顔負けの派手なアクションで人気を得た。今どうしているのか。

「女優として突っ走ってた時期で、徹夜もヘイチャラ。ピンピンしてたのに、ある日、向こうずねを押したら、皮膚が戻らない。そういえば、ちょっとだるいかなあって感じで病院に行ったら、即入院よ。って原因不明の難病だった。それが27歳のときでしょ。女優にとっては致命的だったわね」池袋駅に近いカフェで会った藤田さん、サバサバした調子でこう言った。

「結局、寛解するまで十数年かかったのかな。で、ようやく復帰できると喜んだ直後、妊娠してるのがわかったの。ところが、薬の副作用で健常者でない子供が生まれる可能性は一般の25倍も高いって話じゃない。ホント、神様ってイジワル！ だから、男の子が2人いた主人と結婚させたのかしら、なんて思ったりもしたわ、ハハハ」結局、出産を決意。無事に女の子を産み、25歳になる。ちなみに、77年に結婚したダンナは元ディレクターで、2人の息子はすでに独立している。

「あれやこれやの人生やってるうちに今年で60歳になっちゃうけど、表現者でありたい、って気持ちは膨らむばかりだったのよね。女優としての経験を生かしながら挑戦できるものは何かと考え、シャンソンに出合ったの」

「05年、シャンソン歌手でライブデビュー。現在は毎月1、2回、市谷薬王寺町のシャンソンのサロン「えとわ〜る」でソロライブを開催。5月28日には渋谷区松涛のライブハウス「サラヴァ東京」で戸川昌子とジョイントする。

「パリのネーティブなフランス語を勉強しにいき、レパートリーは150曲以上になったわ。ヒールを履けば170センチ以上、着物は似合わず、共演の男優さん泣かせだった体格も、ひとりでステージに立つ分にはかえって舞台映えする。顔や体つきが役を選んじゃうジレンマからも解放されたのもうれしくて」シャンソンだけではない。99年から俳句結社「炎環」に所属し、「山頭女」なる雅号を持つ俳人であり、また、毎週第2、4月曜日に前述の「えとわ〜る」、木曜日には北千住の「読売・日本テレビ文化センター」で朗読教室を開いている。

「画家としても活動してて、7月2日から銀座の『ギャラリーGK』で14回目の個展をやる予定よ。6年前には舞台『IMAGINE 9・11』で役者復帰も果たしたでしょ。講演に呼ばれればどこでも出かけていくし、今は膠原病でのブランクを取り戻す、いえ、それ以上のエネルギーを発散してる感覚ね。人生、先のことなんて誰にもわからない。今、現在の自分の可能性を探って、一生懸命動き回るしかないわ」

05年、NHK出版から「人生フルターン 私は負けない」を出した。まさにそのタイトルそのままのポジティブライフのようだ。

「俳優志望の娘がオーディションに落ちては、ガックリして帰ってくる。そのたびに、どうだ！ 人生厳しいだろう！ ってハッパかけてやるの、ハハハ」